

綾瀬川浄化・地域戦略プランへと導いた提言活動

せせらぎグループ代表

三井 元子

2008. 7. 31

<事業概要>

平成7年、綾瀬川下流の直接浄化を図る為、八潮市の川沿いに見つけた湿地の買取りと保全方法を行政に提言し、関係7団体からの要望書も取りまとめて国やルネッサンス21協議会等に提出。粘り強く活動を続け、平成10年には買取りが成功。対岸の足立区桑袋ビオトープ公園建設も含んだ地域戦略プラン実施のきっかけを作った。平成17年桑袋ビオトープ公園が完成。19年度中には大曾根の湿地整備も完了する。12年間、整備計画を確かなる実行に導くため、懇談会・検討会に参加し、地域と行政とのパイプ役を務め、見守り活動を続けてきた。平成15年設立のNPO法人エコロジー夢企画と共に、自然観察教室を実施し環境教育に務めている。

(2007年、韓国のNGOからの取材を受け、この活動がホームページで紹介された。

http://www.anseongnews.com/bbs/bbs.asp?exe=view&group_name=316§ion=3&category=0&idx_num=12262&page=1&search_category=&search_word=&order_c=bd_idx_num&order_da=desc)

<事業の目的>

- (1) 全国一級河川水質汚濁ワースト1の綾瀬川下流部両岸に直接浄化施設を作る。
- (2) 八潮市と足立区の地域交流を進める。
- (3) 地域の人たちが、守り育てていく活動を創出する。

事業内容:

1. 全国一級河川水質汚濁ワースト1の綾瀬川の浄化を進めるには、自然の浄化力を活用した直接浄化施設がいずれ複数必要になる。平成7年、せせらぎグループがコンクリート護岸の続く綾瀬川下流部で、設置の可能性のある敷地を調査した結果、八潮市に綾瀬川と隣接した湿地を発見。民有宅地であったこの土地の買取りと整備方法について、図面と水質・生物の調査結果を添付して平成8年に提言書を提出。
2. 足立区・八潮市と共に、数年にわたって要望運動をした結果、平成10年補正予算が付いた。この時、地主説得のため、せせらぎグループの呼びかけで綾瀬川流域の市民団体(7団体と5個人)からも要望書を提出。平成11年土地の買い取りが成功。綾瀬川最下流部唯一の多自然型ワンドの実現に至った。
3. これが契機となって、対岸の足立区桑袋小学校跡地に礫間直接浄化施設をつくり、ビオトープ公園・河川情報発信施設・人道橋の建設をする案が生まれた。平成11年、足立区と八潮市から国へ地域戦略プラン「綾瀬川水質汚濁ワースト1脱却プランー生態系保全再生空間整備ー」を提出したところ、同年6月これが承認された。
4. 八潮市の湿地保全に関する懇談会で、湿地に綾瀬川の水を常時流すためポンプアップが必要となったので、電源を人道橋の上部につけた太陽光パネルから採取することを発案。平成12年「浄化対策電力源と近接する橋」のデザイン2種を図面添付して国に提出。
5. 八潮市には、川に関する市民団体がなかったが、懇談会を契機に「大曾根の湿地ビオト

プをまもる会」が設立されることになり、創立のためのアドバイスをを行い、顧問となる。平成12年9月創立、現在会員47名。

6. 平成13年足立区桑袋小学校跡地公園整備検討会メンバーとして参加。検討会の結果として礫間浄化施設による伝右川の浄化、足立区原風景を創出するような林と水田・池のある公園、太陽光と雨水利用をした河川情報発信施設を作ることが決定した。しかし平成16年、河川情報発信施設建設に当たっては、足立区主催の検討会結果が反映されない設計図が呈示された為、せせらぎグループから嚴重抗議。設計の修正を果たした。
7. 八潮市湿地では平成13年第1期工事が終了し、川と池を結ぶ魚道が出来た。市民団体に魚類調査をしたところ、魚種が増え、20年ぶりの出現と見られるマルタもみつかった。平成14年には、中学生が4人池で泳いでいた。水ガキ(水辺で遊ぶこどもたち)の出現である。
8. 平成14年、八潮市湿地第2期工事に当たっては、担当者が変わり、また路線変更案が出たため、意見書を提出する。
9. せせらぎグループは、平成5年から「あだち区民環境フェア」、平成7年から「綾瀬川クリーンキャンペーン」、平成8から「あらかわ学会」、昭和61年から「足立区消費者」に参加して綾瀬川の汚濁状況と浄化について啓発活動を行ってきたが、平成8年以降は、さらに当該事業についても経過を発表し、区民への周知活動を行ってきた。
10. 平成15年に創設されたNPO法人エコロジー夢企画(同代表)は、せせらぎグループの活動を引き継ぐべく、兩岸の生物生息環境調査を行いホームページ www.ecoyume.net で展開。クリーンアップ活動や自然観察会、親子魚調査などを行っているため、毎回協力関係にある。
11. 平成19年、大曾根の湿地の第2期工事も完了し、綾瀬川と2つの魚道で繋ぐ大池が2つ、独立池が1つ完成。池には、ヌマチチブ・モツゴをはじめボラ・メダカ・カライワシ・ウグイが出現。植物ではヌマガヤツリ、シロネ、タコノアシ、ゴキヅルなどが見られる。

<活動の必要性・緊急性>

綾瀬川は全国一級河川水質汚濁ワースト1を連続15年取り続け、その後大和川と1位、2位を競いつつも、今年度また1位の座についてしまった。水源が農業用水と生活排水であること、特に下流側は浄化作用のないコンクリート護岸が続いている事に原因がある。地域戦略プランでビオトープ公園を2箇所、礫間浄化施設を1箇所作ることになったことは、意義が大きい。導水事業によって水量が増えたとしても生物の棲みつく多孔質層がなければ、浄化は進まないからである。

<活動の今後の計画>

1. せせらぎグループの活動を引き継ぐべく、NPO法人エコロジー夢企画を立ち上げ、周辺の生物生息状況調査を15年と19年に行っており、結果はホームページで紹介されているが、現在ガイドブックを製作中。
2. 八潮市湿地には、初めての環境保護団体「大曾根の湿地ビオトープを守る会」ができ、すでに定期的にゴミ拾いをしたり、他河川のグループの活動を見学したりしている。第2期工事完了後は、本格的に管理を担っていく団体として、懇談会で承認された。せせらぎグループ代表の三井が顧問を務めている。
3. 足立区桑袋小学校跡地の公園も市民団体によって管理していかれるよう河川情報発信施設を拠点として八潮市と足立区のメンバーや一般市民が情報交換や交流をし、綾瀬川の浄化を見守っていけるようなネットワークを作っていきたい。

4.小・中学校の総合的学習のフィールドとして活用し、今後も水質や水辺の安全等についての指導をNPO 法人エコロジー夢企画や大曽根の湿地ビオトープを守る会とともに実施していきたい。



コンクリート護岸の続く綾瀬川下流



直接浄化施設の必要を提案した
せせらぎグループ



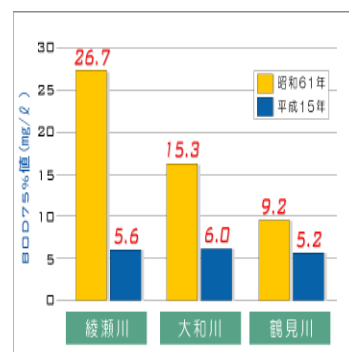
水質調査を指導する
せせらぎグループ



買取りと保全が進んだ大曽根ビオトープ



小学校跡地を利用した
ビオトープ公園完成



全国ワースト1脱却？水質改善努力では全国1位になった綾瀬川



NPO 法人エコロジー夢企画と
綾瀬川の魚調査・安全教室



大曽根ビオトープ周辺の生物生息環境調査
By NPO 法人エコロジー夢企画